

2025年度 とうきょうすくわくプログラム
練馬区 みらいく平和台園 1歳児

【活動スケジュール】

1 1月：《テーマ》身近な自然を探索しながら触れて発見を楽しむ
《活動内容》公園に行って自然物を探す、拾う、違いを楽しむ

1 2月：《テーマ》気になる植物や野菜で色遊びを楽しむ

《活動内容》

①公園で子どもが拾った葉っぱや木の実、人参の皮や玉ねぎの皮を揉んで色水を作ってみる

②作った色水を半紙、障子紙、コーヒーフィルター、ハンカチに染み込ませて染めてみる

※親子で一緒に取り組めるようにする。

野菜：にんじん、赤パプリカ、黄パプリカ

植物：緑の葉っぱ、木の実

1 月：《テーマ》身近な植物を集めて音遊びを楽しむ

《活動内容》

①木の枝や石で身の回りの物を叩いてみる

②落ち葉プールを作ってこすれる音や踏む音を楽しむ

2 月：《テーマ》自然物を使った創作・表現活動を楽しむ

《活動内容》

①拾ってきた木の枝でフレームを作ってみる(1 2月に作った染め布を入れるか、普段の製作を入れるか、自宅でフォトフレームにするか用途は自由)

②自然物でマラカス、センサリーボトルづくり

3 月：《テーマ》自然物を使って見立て遊びやごっこ遊びを楽しむ。

《活動内容》2月に作成したものや、その場で拾ったものを使っておままごと遊び(木の枝を食具に見立てるなど)(レジャーシートを敷いてピクニックごっこ)

11月 ～身近な自然を探索しながら触れて発見を楽しむ～

11月4日 仲町西児童遊園

公園への散歩道に実がなっている木があることを子どもたちに伝えると、「どこ？」と興味を持って探し、見つけるとじっと観察する姿が見られました。その後、「赤い実！」と見つけたものの色を嬉しそうに伝えてくれました。公園に着くまでの間も「赤い実あったねー」と話をしていたため、保育者が「公園にもあるかな？一緒に探してみようか」と声をかけると「うん！」と嬉しそうに返事をしてくれました。

☆紫色の実を発見☆

公園に紫色の木の実が成っているのを発見

砂場セットのバケツを手に持ち、拾った実をバケツの中に入れて集める子どもたち。実の大きさに違いがあることに気付き、「おっきい！ちっちゃい！」と発見を喜んでいました。保育者が「紫色だね」と色の名前を伝えると「むらさき？」と聞く子どもたち。保育者が「ぶどうと同じ色だね」と身近な果物に例えて伝えると、手に取った実を鼻に近づけクンクンと匂いを嗅ぎ、パクッと食べる真似をして「おいしい！あまい！」と笑顔を見せてくれました。

拾った実を投げて転がしてみる子や、両手いっぱい拾い集めた実を砂場に持っていき、丸いカップの中に入れて歩くと反動でカップの中の実がコロコロと転がることに気づいたようで、その場で立ち止まり腕を左右に振って動きを観察して楽しむ子など、色々な発見と楽しみ方が見つかりました。

☆保育士の気づき・振り返り☆

紫色の実を「ぶどうみたいだね」と保育士が身近な食べ物に例えると、匂いを嗅いだり食べる真似をしたりする遊びに発展していた。「丸い形だね」と形に着目するような声掛けをするとカップの中で転がして遊んでいた。声掛けの仕方でも子どもの興味の向き方やその後の展開が変わっていくので、1つの素材で様々な遊びが行えることに気づいた。



たくさん実が成っているね。
触ってみよう！

集めた実を砂で作ったアイスの上
に乗せてみよう！



砂場遊び道具のカップの中に入れて
転がしたら、コロコロ音がしたよ！



『シャリンバイ(車輪梅)』という植物で、4～5月に白い花を咲かせ、秋から冬にかけて紫色の実が成る植物です。染料としても使われています。名前は葉が車輪のように輪生状につくことと、花が梅に似ていることに由来しています。

まあくて、紫色をしているね。
引っ張ってみようかな！



11月 ～身近な自然を探索しながら触れて発見を楽しむ～

11月11日

☆散歩に行く途中の歩道で大きな葉っぱを発見☆

発見すると興味を示して近寄り、葉っぱを拾ってじっと見つめていた子どもたち。観察した後は葉を小さくちぎって乾燥した葉のバリバリとした感触を楽しみました。「カサカサ！」と言いながら大きな葉っぱを何度も踏み締めて笑顔を見せたり、「ちょうだい！」と言って葉っぱを欲しがり、保育士が拾って手渡すと満足そうな表情を見せたりしていました。

☆やまぼうしを発見☆

中身がどうなっているのか興味を持って手で潰し、中からドロっとした黄色い身が出てくるとそれを触って感触を確かめる様子が見られました。保育士が「どんな匂いかな？」と促すと、くんくんと匂いを嗅いでみる姿も。それを見たお友達も真似をして匂いを嗅ぐ可愛らしい姿が見られました。保育士の「さくらんぼに似ているね」の言葉で、馴染みのあるさくらんぼが浮かんだようで、「さくらんぼ！」と笑顔で言っていました。

☆拾った自然物を使っての砂場遊び☆

拾った自然物を砂場に広げ、保育士が砂山に葉っぱとやまぼうしを刺してケーキに見立てると、「ケーキ！」と嬉しそうな笑顔を見せる子どもたち。やまぼうしケーキを大事そうに持ち歩いていました。砂場にたくさん落ちていた落ち葉をスコップですくって集める姿も見られ、自然物にたくさん触れて遊ぶことが出来ました。

☆保育士の気づきや振り返り☆

公園だけでなくその道中にある自然物にも目を向けられるような関わり方をしていくと、子どもたちも公園に行くことを目的とするのではなく周りの景色を見ながら「あの赤いの何？」と自然物があることを発見していた。子どもと一緒に探索と発見を繰り返していくことで、身の回りにたくさんの種類の自然物があることに気づくことができ、自然物を身近に感じる事が出来た。また、自然物に触れながら色や音に興味を示す姿が見られた。



『ヤマボウシ』
9月頃に赤やオレンジ色に熟す食用可能な「複合果」で、マンゴーやバナナのような甘い風味とトロピカルな味が特徴、生食のほかジャムや果実酒にもなります。



くんくん。ヤマボウシって甘いにおいがするんだね。



お顔より大きい葉っぱがたくさん落ちているね。触ってみたらカサカサ、バリバリと音がしたよ。

集めた葉っぱとヤマボウシでケーキを作ってみたよ。

僕たちもヤマボウシと葉っぱで気ケーキ作りに挑戦！



見て見て、僕も拾ったよ！

拾った自然物を使ってたくさん砂遊びをしました。



12月～身近な自然物や野菜で色遊びを楽しむ～

11月に戸外活動を通して葉っぱや木の実など自然物にたくさん触れ合い楽しんだ子どもたち。紅葉で色づいた葉っぱを見て「あか！」「きいろ！」と色の名前を言う姿も見られました。また、畑の前を通ると「これは？」と何の野菜か保育士に聞く姿もありました。なので12月は戸外活動で拾った葉っぱ・サザンカ・ヤマボウシなどの自然物に加え、野菜を使った色水遊びをしました。

12月11日 ☆色水遊び&染め布体験☆

色水作りで使う野菜や自然物の紹介をすると「公園あった！」と公園で拾ったことを伝える姿や、「にんじん」と野菜の名前を言う姿が見られました。ブンブンチョッパーを使い野菜や自然物を細かくすると「ちっちゃい！」と大きさが変わったことに気付く子もいました。サザンカの色水では、ピンク色の花びらなのに出てきた水は茶色ぽい色味で「あれ？」と不思議そうな表情を見せる子もいました。筆と紙は複数種類を用意し、自分で好きな物を選び描くことを楽しみました。「あかにする」と使いたい色を伝えたり、「みてみてー！」と色がにじむ様子を知らせたりしながら楽しむ姿が見られました。

染め布体験では、筆を使いちょんちょんと色をのせる子もいれば、布をバットの中に入れて色づける子もいました。出来上がったハンカチを見て「かわいいねー」と言ったり、染まっている色を指差し「ここきいろしたよー」とどの色を使って染めたのかを嬉しそうに教えてくれる子どもたちでした。

☆保育士の気づきや振り返り☆

様々な素材を用意し自分で興味のあることを選択できる環境を整えることで色のしみ方や色の付き方、色の混じり合い方の変化に気づき観察を楽しむ姿が見られた。豊富な素材を用意することで子どもの興味や発見が広がることに気づくことが出来た。

わあ！みて！
ちっちゃくなった！



うーん。
どれに
しようかな？



みんなで力を合わせて
せーのっ！わあ！
オレンジ色だ！



完成！

ヤマボウシは
どんな色に
なるのかな？



あれ？ピンク色の
花びらなのに
茶色??



1月 ～身近な自然物を集めて音遊びを楽しむ～

自然探索をしている際に、公園の隅に落ち葉が集まっていることに気付いた子どもたち。落ち葉の上を歩きながら「カサカサ」と葉っぱが擦れる音を楽しむ姿が見られました。そこで今回は公園で拾い集めた自然物を使いながら音に着目した活動を行いました。

1月27日 ☆葉っぱクッション&葉っぱ風呂☆

葉っぱクッションでは、保育士が袋に葉っぱを入れていると「なににない？」と興味を持ち活動を楽しみにする子どもたち。マットを用意し、サーキットの1コーナーとして葉っぱクッションを設置しました。マットの上から葉っぱクッションにジャンプをすると葉っぱが潰れてクシャクシャと音が鳴ることや、その感触が楽しかったようで「ごろんする」と次は寝転んだりハイハイをしたりしながら全身を使って音と感触を楽しむ姿がありました。

葉っぱ風呂ではプールの中に公園に落ちていた葉っぱを集めて遊びました。手足を動かすたびに葉っぱが擦れてカサカサと音が鳴ることが面白かったようで、バタバタと大きく手足を動かして音を鳴らす姿が見られました。また、乾燥している葉っぱを握るとパリパリと音を鳴らしながら粉々に砕けていくことを発見すると「みてみて！」と保育士に嬉しそうにその様子を見せ、音を聞かせてくれました。

☆保育士の気づきや振り返り☆

乾燥した葉っぱの音を「カサカサ」という子もいれば「ガザガザ」「パリパリ」と表現する子もいた。子どもによって感じ取り方や聞こえ方が様々な為、互いの見つけた音を聞き合うことでさらに音への興味を深めることが出来た。また、葉っぱ風呂ではスコップで混ぜるなど料理に見立て遊ぶような姿が見られた。



カサカサ音が鳴る！発見！



座ると葉っぱで体が半分埋もれるくらいたくさんの葉っぱを集めたよ！



バケツに葉っぱを集めてまぜまぜしてみようかな



わあ！この感触なに？面白い！

1月 ～身近な自然物を集めて音遊びを楽しむ～

1月16日

☆【おともり】で遊んでみよう

これまでの活動で落ち葉を踏む音、落ち葉プールで葉っぱが擦れる音、木の実を転がす音など、自然物が奏でる“音”も楽しんできた子どもたち。木から作られた様々な音が鳴る玩具〈otomori〉を使って、木の温かみに触れながら音遊びを楽しみました。初めて見る玩具でしたが、慣れ親しんだ温かみのある木の素材を見て興味津々で触っていました。

☆これまで五感を使いながらたくさんの自然物に触れてきたので、公園に行くと木の実や葉っぱ、お花を拾って「持って帰る」ということが増えてきました。子どもたちの「持ち帰りたい」の気持ちを受け止め、2月は発見したものを持ち帰って製作にしてみる、という取り組みに繋げていきたいと思います。

☆保育士の気づきや振り☆

楽器による音の違い、同じ楽器でも叩く場所や力加減による音の違いに気づき、自分なりに試しながら楽しむ姿が見られた。自分で発見し試すことで探究心がさらに深まり活動に前向きに取り組めるようになることに気づくことが出来た。



みんなで演奏会。
どのボタンも違う音がるね。



カラカラ音が
するね。



玩具に顔を近づけて匂いを嗅ぐと木の優しい香りがしたので、「木のいい匂いがするね」と伝え、真似して顔を近づけて匂いを嗅ぐ様子が見られました。



太鼓型のおもちゃを叩いて「ドンドンするね」と迫力のある音を楽しんだり、木琴の音色がする玩具を「一緒にやろう」と言って保育士と一緒に演奏を楽しんだりしました。それぞれが全く違う音を出すので、聴覚を刺激されながらとても楽しそうに全ての玩具を順番に触っていました。



2月～自然物を使った創作・表現活動を楽しむ～

2月12日 ☆センサリーボトル☆

公園で拾い集めた自然物を使いセンサリーボトル作りをしました。11月より継続的に行っていた自然探索を経て子どもたちの興味が広がり、「サザンカにする」と植物の名前を覚え言う姿がありました。「木にする！」と木の枝をたくさん入れる子、「公園にあったね」と石を入れる子、それぞれ自分の好きな自然物を選び楽しんでいました。センサリーボトルが完成すると、逆さまにして葉っぱや花びらが動く様子を「きれい」と眺めたり、「葉っぱのジュースなの」とドリンクに見立て友だちと乾杯をしながらおままごと遊びをしたりしていました。

☆保育士の気づきや振り返り☆

創作・表現活動を通して、身近な素材の形、大きさ、硬さ、重さなどの違いに気づき「次はこれにする」と子どもなりに考えて取り組んでいた。また、〇〇色だから〇〇味のジュースなのと想像力を働かせて見立て遊びを楽しむ姿が見られた。



2月～自然物を使った創作・表現活動を楽しむ～

☆拾った自然物でフォトフレームを作ってみよう

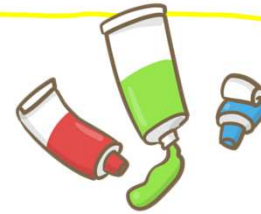
これまで様々な自然と関わる活動を楽しんできた子どもたち。2月に行ったセンサーボトル作りでの楽しい体験を経て、ますます自然物に興味を持って触れて楽しんでいます。今回は、みんなで行ったふれあい公園で集めた木の枝を使ったフォトフレーム作りに挑戦です。木の枝集めでは大小様々な木の枝を拾って「これもー！」と言いながら袋にたくさん詰めてくれました。

☆保育士の気づきや振り返り☆

木の枝を折って長さを変えていく中で、長いのはママ短いのは赤ちゃんなど見立てて話をする姿が見られた。ママと赤ちゃんは隣にくっつけるなど子どもたちなりに遊びの世界に入り込み取り組んでいた。



初めての紙粘土。最初はペタペタと指につくのが気になる様子。慣れてくると、楽しそうに揉んで感触を楽しんでいました。



自分で好きな絵の具を選んで粘土に混ぜ込みました。かわいい色になったね。

みんなで集めた木の枝。どれをくっつけようかな？



3月～自然物を使って見立て遊びやごっこ遊びを楽しむ～

☆どんぐりと木の葉を使った見立て遊びとごっこ遊び

自然物に触れながら音や色に着目した活動を楽しんできたことにより、散歩先で自然物を見つけると「持って帰りたい！」と大事にする姿が見られるようになりました。そこで、みんなで集めた自然物を保育園に持って帰り遊びに取り入れた活動を行いました。

☆保育士の気づきや振り返り☆

頭についた葉っぱを動物の耳に見立てたりきりなど、なりきりたいもの、見立てたいものの具体的な想像がついているからこそ子どもたちが何になりきるのか見立てるのか自分で考えて選択し遊びを展開させていけるのだと気づくことが出来た。そのために、日頃からの足場掛けが大切だと分かった。



木の葉では、「いまカレー作ってるの」とスプーンやヘラなどの食具を使って混ぜたり、「これはコーヒーだよ」とコップの中に木の葉を入れて飲み物を作ったりしながら料理の具材に見立てていました。



どんぐりでは、「ママとキレイキレイしてるの」と家で料理をする時に野菜を洗う手伝いをしていることを話しながらキッチンの水道で洗ったり、「ジュージューすると温くなるんだよ」とフライパンで炒めたり、「パッパッ」と言いながら味付けをしたりする姿がありました。

遊びに夢中になっているうちに、ふと友だちの頭に木の葉がくっついていことに気付いた子が「わんわんの耳みたい」と発言をすると、そこから動物なりきりごっこが始まりました。「うさぎさんにする！」と自分の好きな動物の動きや鳴き声を真似し、木の葉を使ったなりきりごっこ遊びを楽しんでいました。